

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・**最終**)

安浦中学校区 校番 32 学校名 安浦小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	○子どもの実態に合った目標、指標の設定をしている。
目標達成のための方策の適切さ	A	○目標達成のための方策が適切である。特に、学びの基礎・基本を定着させるためのAIDリルによる賞に該当する児童の掲示は、学習意欲の向上につながるためのよい方策である。 ○ぐんぐんタイムやぐんぐん教室、AIDリルを活用し、60点未満の児童の指導に力を入れ、底上げを行っている。授業を見ても、戸惑ったりぼんやりしている児童もいなく、集中できているのが成果と言える。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	○AIDリルの成績の掲示や役立ち名人アンケート等、児童のやる気や結果につながる「見える化」「情報発信」に取り組んだことが、成果につながっている。 ○「役立ち名人アンケート」の「学校や学級の役に立てた」など感じている児童がほとんどで、達成感を感じている。それがきっかけとなり、人のために何かをしようとする気持ちやボランティア精神のもとを身に付けていくことができる。 ○「連絡ノートに漢字を使った短文を毎日書く」という課題はよいと感じた。自分で考えたり調べたりして書くことが大切だと感じた。 ○個人差に対する対応が重要である。
今後の改善策(案)の適切さ	A	○確かな学力の改善策として、放課後に「ぐんぐん教室」を行うのは、学習の自力アップが必要な児童にとって効果が大きく期待でき、働き方改革においても、児童の向き合う時間と教育の質の構築につながっていると考える。 ○防災教育で、「防災通信」をタブレットで配信することは、保護者の防災意識を高める方策として効果的であると思う。
その他		○チーム安小で、よりよい学校に向けて進めてほしい。 ○授業参観から、どのクラスもいきいきとした発言や活発な行動をみることができた。児童と向き合う時間を確保し、1年間を通して、先生と児童の信頼関係を構築してのを感じた。 ○現在の家庭環境を考えると、学校で付けるべき力(礼儀や感謝の心、防災など)も大切ではあるが、家庭に少しずつ戻していくことも必要であると思う。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○教職員がゆとりをもち、児童と向き合う時間が確保できるように、行事や業務内容の見直しやスリム化をするなど、働き方改革を推進する。</p> <p>○児童の基礎的・基本的な学力を定着させるため、ぐんぐんタイムやぐんぐん教室、AIDリルを継続して行う。</p> <p>○タブレットを活用しての学びとノートやプリントに書く学びをバランスよく計画的に進める。</p> <p>○学校での教育活動の中で、児童同士の話し合い活動(コミュニケーション活動)をさらに多く位置付ける。</p> <p>○防災教育の充実に向け、内容を精選するとともに、学校が避難場所であることを児童に意識させる取組を行う。また、効果的な保護者への啓発についての具体策を考え、実行する。</p>
--------------------	--